

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

致死性不整脈発生の解明のための正常心臓と肥大型心筋症のプルキンエ線維—心室筋接合部および一般心筋の立体構造の解析

1. 研究の対象および研究対象期間

2012年から2018年に当院臨床病理診断科において病理解剖を施行された方

2. 研究目的・方法

心臓の規則正しい拍動を生み出す刺激伝導系はその終末部分にプルキンエ線維（細胞）という特殊な心筋細胞のネットワークがあり心室の最も内側の心内膜面と呼ばれる部分で一般心室筋と接続しています。この部分は心筋梗塞など様々な疾患でその結合性が傷害されて心室頻拍などの致死性不整脈を発生させる原因となるとされていますが、どのような形態変化がこの不整脈発生の関連しているか不明なままとなっています。また、特発性心筋症の一つである肥大型心筋症は心筋収縮に関連するタンパク質の遺伝子異常が主な原因とされ、形態学的には心室壁の特に中隔と呼ばれる部分の非対称性肥大や心筋細胞の錯綜配列などを特徴として、時に致死性の不整脈を生じて突然死をきたすことがあり、法医学的にも重要な疾患となっています。一般的な顕微鏡による観察では心筋の錯綜配列が肥大型心筋症では特徴的であるものの、正常心臓でみられる心筋の配列とどのように異なり、なぜそれが致死性不整脈の発生と関連があるのかも不明のままとなっています。今回の研究ではこの二つの心筋の構造を立体的に解析することで、不整脈の発生機序解明を目指すものです。この研究では病理解剖症例の心筋標本を用いて、正常心臓および肥大型心筋症の心室筋およびプルキンエ線維の組織学的立体構造を画像解析装置により作製したり、また走査電子顕微鏡などにより観察したりすることでその立体的な画像情報を得て、その不整脈の発生のメカニズムを検討していきます。病理標本作製および画像解析機器による画像の取り込みおよび解析を昭和大学医学部法医学講座と顕微解剖学講座、臨床病理診断学講座で共同して行う。本研究は学術研究であり、入院されていた患者さんのデータを利用します。患者データは病院内の診療録管理室にて「9. 診療録等の調査項目」に記載した情報を取得します。取得した情報は、本研究者間のみ情報を共有します。診療情報の利用に伴う同意取得の方法：院内掲示又はホームページによるオプトアウトを行います。研究概要（研究目的・調査内容等）を適切に通知・公開し、診療録情報の利用について適切な拒否の機会を提供します。